

## 2025 年度 商工系資格評価型選抜 小論文問題

次の文章を読み、問いに答えなさい。

数字が重要な価値をもつ社会は、数字によって人間を序列化する。単に数値で測られるだけではない。たとえば会社では利益をどれだけ挙げたのかが基準になり、営業成績の良い社員が評価される。数値が支配する社会では、人間を役に立つか立たないかで切り分けられる。第4章では社会の数値化が能力主義を生み出し、さらには現代的な差別を生み出すということを議論していきたい。

アメリカの喜劇役者チャールズ・チャップリン（1889-1977）が監督・主演した『モダン・タイムス』（1936）というコメディ映画がある。チャップリンが演ずる工場労働者の主人公は、機械と資本家に縛り付けられながら同時にコミカルに工場のラインを乱し、上司をはぐらかすことで抗う。映画の前半で、チャップリンは人間が工場や機械に管理される様子を描いた。チャップリンはベルトコンベアに乗って歯車に巻き込まれながら文字通りに歯車と一体化する一方、社長は社長室でジグソーパズルで暇をつぶしながら、テレビ画面を通して労働者の働きぶりを一望に監視するのである。

1929年の世界大恐慌のあとに作られた『モダン・タイムス』では、失業者のデモや労働者のストライキといった、困難を抱えた労働者の反抗が映し出されている。ヒロインの若い女性は養護施設に収容されそうになったところを逃げた人物であり、困窮した子どもたちが置かれていた状況もうかがえる。デパートの警備員や酒場でのウェイトレスや踊り子といった職業を転々としながら、どたばたとトラブルを起こしつつ、衣食住と自由のために格闘している。工場のなかで機械の歯車になることに抵抗しているのである。

『モダン・タイムス』は経済的な原理が優先するなかで一人ひとりの顔が見えなくなる社会を描いている。映画冒頭、工場労働者が集団で仕事に向かう場面では、羊の群れのカットのあと顔が見えない労働者たちの群れが映し出される。労働者たちはほとんど同じ服装で同じ動作をするために一人ひとりの区別がつかない。

イギリスの哲学者ジェレミー・ベンサム（1748-1832）は「最大多数の最大幸福」という功利主義といわれる議論を展開した。この主張は、ジョン・スチュアート・ミル（1806-1873）からヘンリー・シジウィック（1838-1900）に受け継がれた。幸福が社会的な善の原理であると主張する前提として、幸福が数量化できるということ、最大多数の人（＝マジョリティの社会）にとって役に立つということが重要になる。功利主義によって「多数」と「最大」という数の基準が価値に導入されたのである。ミルはいう。

幸福が善であること、それぞれの人の幸福はそれぞれの人にとって善であること、それゆえ、社会全般の幸福がすべての人々からなる全体にとって善である（以下略）。

幸福が善でありうることは私も否定しない。しかし「社会全体の幸福がすべての人々からなる全体にとって善」とミルがいうとき、排除されたり抑圧されたりする少数の人への配慮が欠けるのではないか、という点が気になるのだ。「社会全体」という顔を持たないものが主語になっているため、全体を優先したときにはいつのまにか消されてしまう人が生まれるのではないかという点にひっかかるのである。

社会福祉学者の藤井渉によると、日本の障害者政策は、第二次世界大戦中の傷痍軍人の支援制度の影響を受けているという。国家に奉仕して戦争で負傷した「役立った人」と、戦争の「役に立たなかった人」という切り分けが初めからあったというのだ。

戦争の役に立つかどうかという切り分けは、戦後になって「経済的に役に立つかどうか」に変化している。日本の主戦場は軍事から経済に移ったのだ。たとえば現在の障害者の支援制度は就労がゴールになっている。障害者がサポートを受ける場も「就労継続支援A型、B型」というように、名称自体に「就労して納税者になる」ことが目的であると明記されているのだ。このように、障害者も労働へと駆り出される。

経済的に役に立つかどうか、それは生産性という言葉に置き換えることができる。個人の生産「性」は、他の人との比較において決まる。自分のために作るのなら「生産性」は問われない。そして、その比較を誰がするのかというと、人ではなく組織や国家である。つまり人間の生産性が問われるときの主体は、あくまで組織・国家なのだ。お互いの顔が見えない巨大な社会では、組織の視点でものごとが決まる。たとえば、テストの点数や年収で他人と自分を比べているときも、自分が誰かと競っているように見えて、実は学校や国家といった顔のない組織によって品定めされているのだ。

出典：村上靖彦『客観性の落とし穴』、ちくまプリマー新書、2023年、59-64ページ。

出題のため一部改変。

問1 本文を要約しなさい。（300字以内）

問2 著者の主張に賛成か反対かを明らかにした上で、なぜそう考えるかを述べなさい。（500字以内）

なお、賛成・反対のいずれを選択するかは自由であり、点数に影響はしない。

以上